

東日本大震災の復興とともに歩む 福島県におけるエコチル調査



「エコチル ふくしま」

～福島の子どもの健やかな成長のために～



公立大学法人福島県立医科大学
エコチル調査福島ユニットセンター
センター長 橋本浩一

日本公衆衛生学会

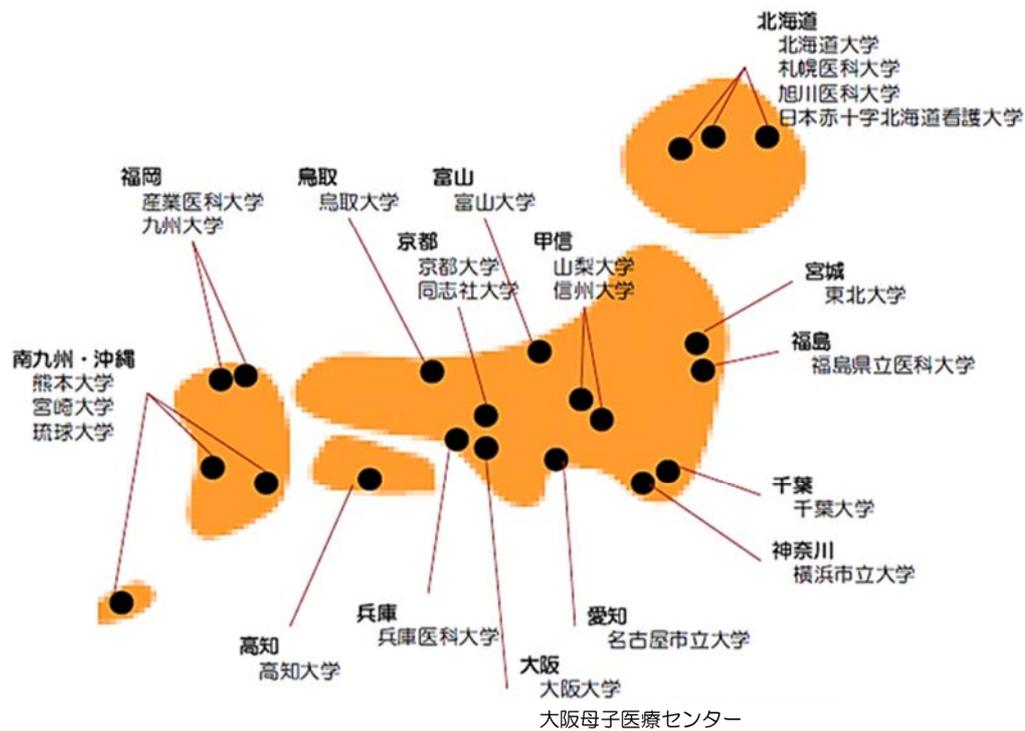
COI開示

所属 福島県立医科大学医学部小児科学講座
エコチル調査福島ユニットセンター

氏名 橋本浩一

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある
企業などはありません。

エコチル調査・全国のユニットセンター



こぼちる

起き上がり小法師 (こぼし)

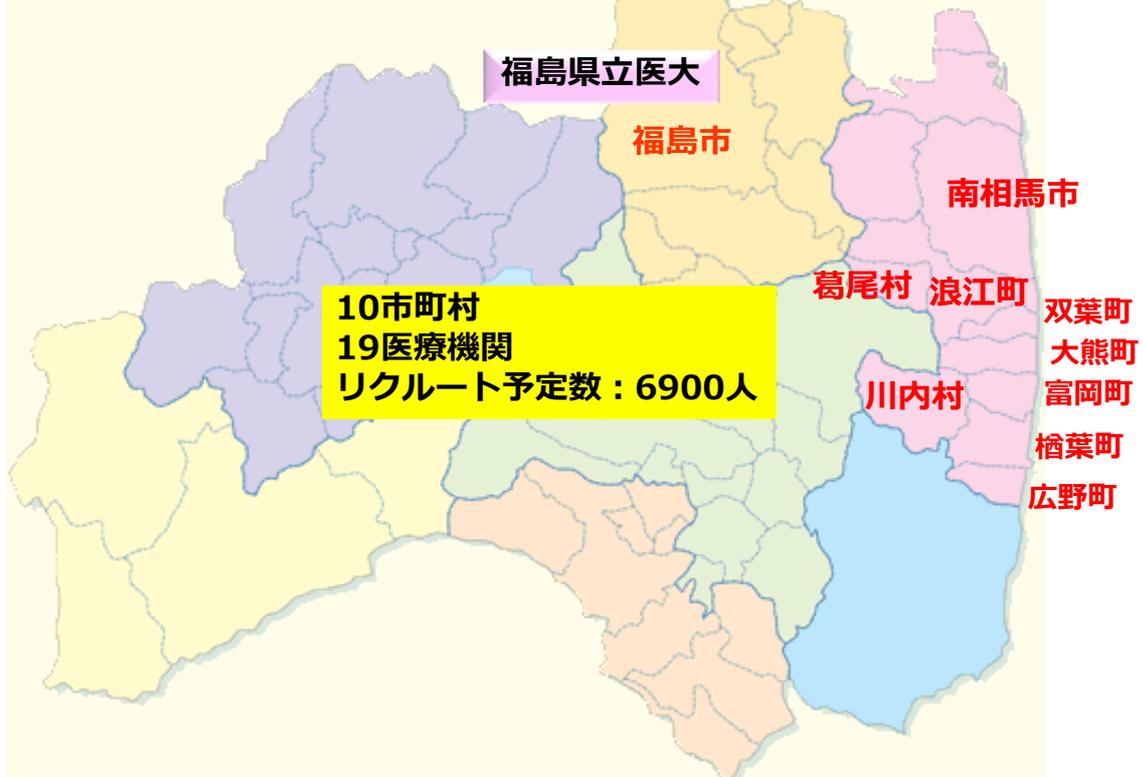
約400年前から作られている郷土玩具。
会津の風習では初市に、一族繁栄・家内安全を祈り、
家族の数より一つ多くそろえるのが慣わしとされる
縁起の良い、会津最古の民芸品



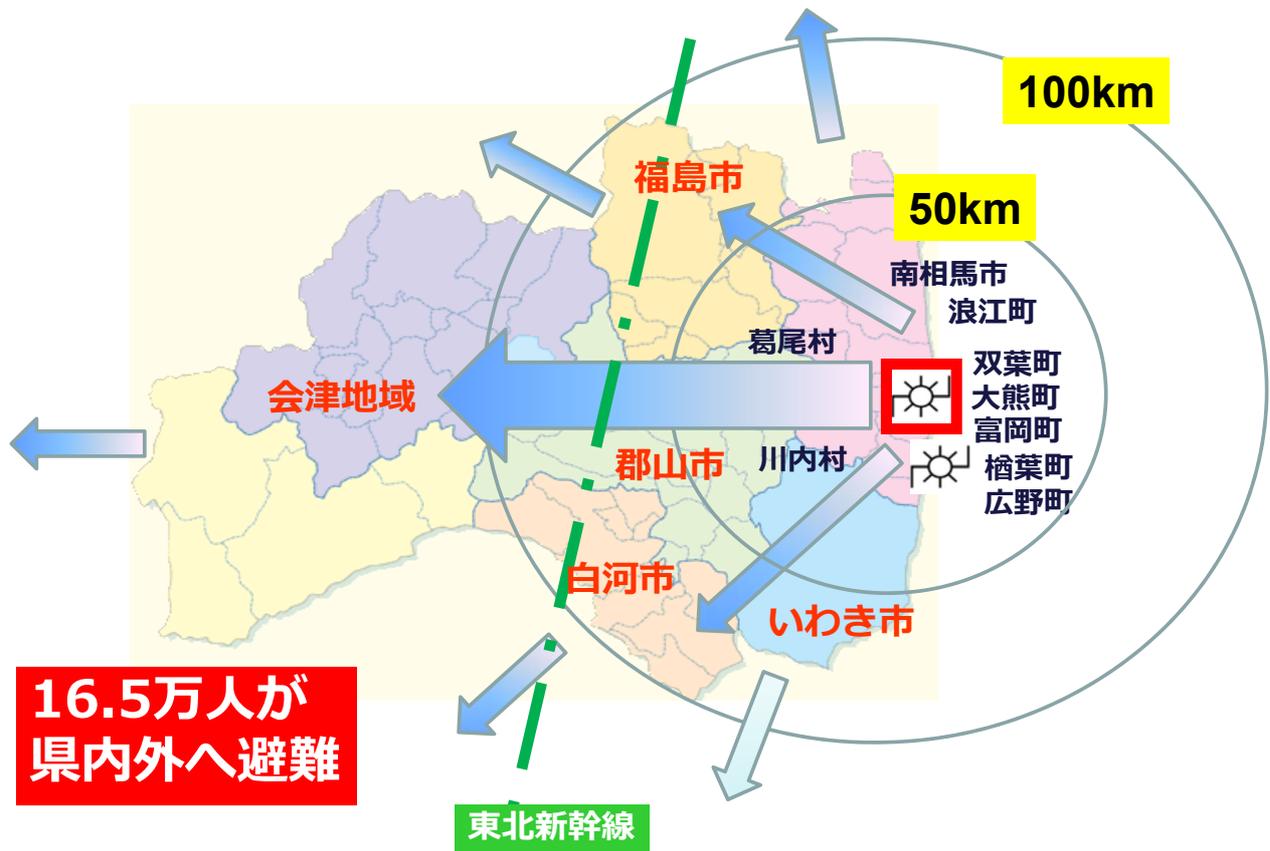
- エコチル調査福島ユニットキャラクター (こぼちる)** は、
- ✓ 起き上がり小法師をモチーフとしており、転んでも起き上がりすくすくと元気に育つ子ども(赤ちゃん)をイメージしています。
 - ✓ 子どもの健やかな成長を願う想いが込められています。

福島ユニットセンター調査地域

(エコチル調査開始時)



震災後、原子力発電所事故後の避難・転居



全国のUCからのメッセージへの御礼

エコチル調査各ユニットセンター 各位

この度は東北地方太平洋沖地震に際し、全国のエコチル調査各ユニットセンターの方々よりお気遣いのメッセージを頂きまして誠に有り難うございました。

今回の大震災において、被災されたのは宮城、福島ユニットの関連地域のみならず、日本全国で多くの方々と存じます。殊に犠牲になられた方々に衷心より哀悼の誠を捧げます。3月11日は東京で午前第2回ユニットセンター連絡協議会が開催され、そして地震の発生時はRCワークショップの開催中でした。震災直後、都市圏も混乱状態でしたので、各ユニットの皆様におかれましてもご心配されたことと存じます。

(中略)

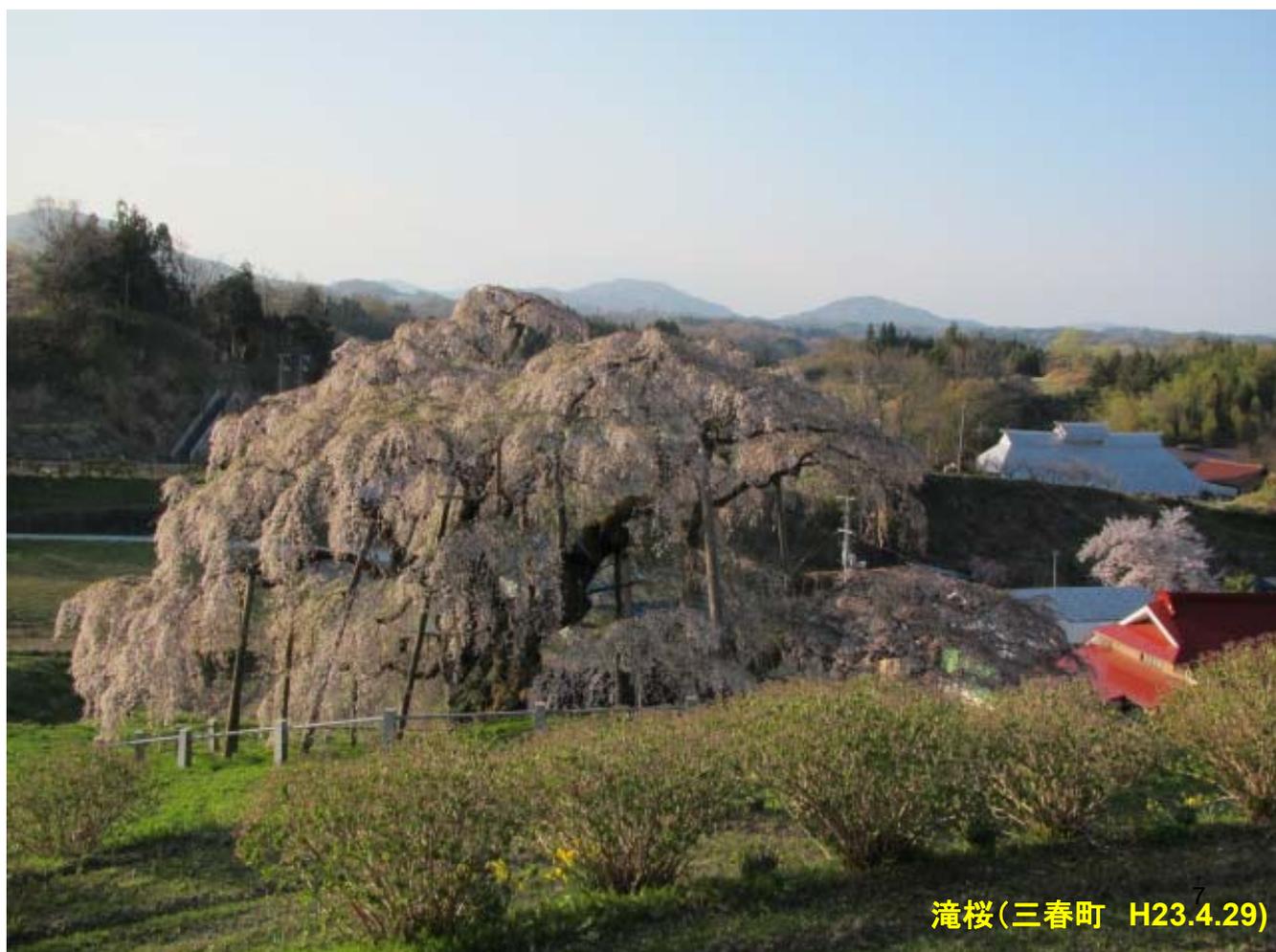
しかし、このような状況だからこそ、県民あげて本調査への関心が高まっています。福島ユニットでは震災後も福島市の協力医療機関の先生方がリクルートを継続して頂いており、ユニットセンターのRCがガソリン不足を気に掛けながらも各医療機関を訪問しています。また、参加者の妊婦さんからは本調査の今後の継続についての質問も寄せられています。3月24日にはコアセンターと臨時のWeb会議を開催させて頂き、現状をご説明致しました。検体回収が可能となり次第、通常のリクルートを行う意思をお伝えしました。

(中略)

最後になりましたが、母親はこんな時だからこそ、子供を見守り、寄り添いながら実施される本調査に期待し、安心を求めています。各ユニットの皆様、今後とも宜しくお願い致します。

平成23年3月29日

エコチル調査福島ユニットセンター



滝桜(三春町 H23.4.29)

エコチル調査の全県下での実施への背景

【福島県内から】

調査対象地域外の調査対象地域外の妊婦、県内の医療機関関係者から全県下での実施を望む声があった。

【環境省・コアセンター】

- 2011年1月から参加募集が開始されたが、エコチル調査の開始後間もなく東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故が発生し、国民の間に、放射線の健康影響への不安が高まった。
- 国民の不安を解消する観点からは、これまで予期されなかった影響が万一にも生じることがないか、見守っていくことが重要と考えられた。

【福島ユニットセンター】

エコチル調査の取組として、家族に対してニュースレター等による子育てに役立つ情報発信や、子どもの成長に合わせた地域での相談会・イベント等での間接的・直接的に参加者とのコミュニケーションを取れる機会を提供することによって、子どもとその家族を見守っていくことが大切であると考えた。

震災後のエコチル調査の意義

化学物質曝露

(環境)

放射線被曝

25年間で
先天異常は
2倍に

男子の出生
比率が減少

20年間で
喘息児は
3倍に

30年間で
肥満傾向児は
1.5倍に

エコチル調査

(化学物質との関連を明らかにする)

県民健康調査を

はじめとする様々な取組

社会が求めていること：震災、原発事故後の健康障害の発症予防
(私は、子どもは大丈夫か?)

正確な情報と正しい理解、環境・食物の監視が最も効果的

エコチル調査は13歳まで半年ごとに質問票で調査を繰り返し、
ご家族と寄り添い、注意深く子どもの成長を見守ります



福島全県化の概要

	開始時 (平成23年1月)	平成24年10月から 福島全県に拡大
調査対象地域	10市町村	59市町村
協力医療機関	19機関	52機関 (茨城県1機関)
リクルート 予定人数	6,900人	15,900人 【+拡大 9,000人】
リクルート期間	平成23年1月～平成26年3月 (3年間)	平成24年10月～平成26年3月 (1年半)

福島県全体で産婦人科約60医療機関のうち51医療機関が協力

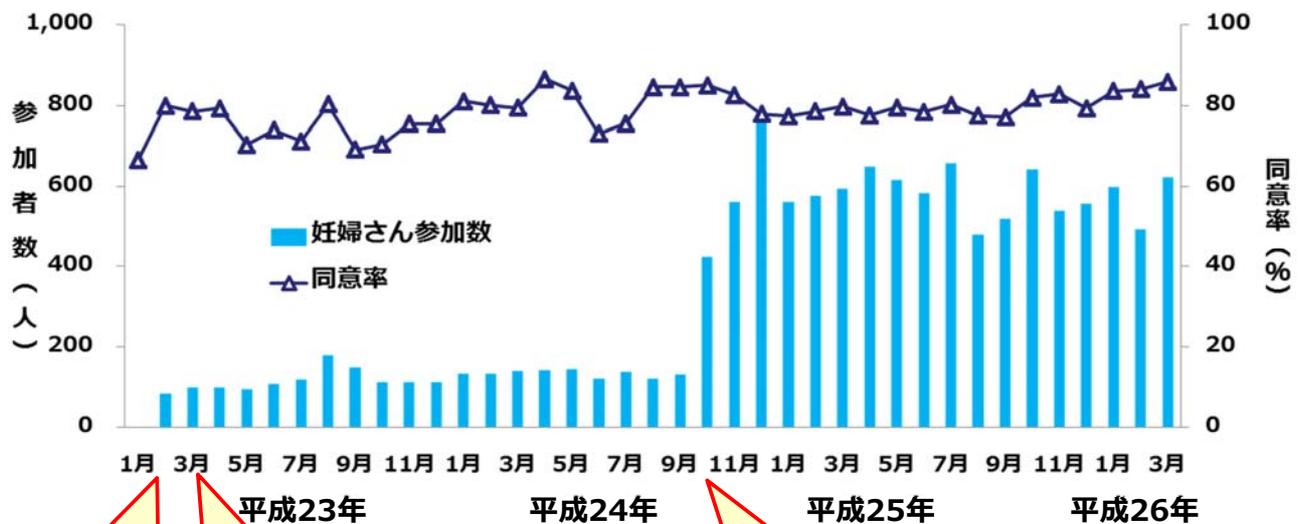
※スタッフ約70人体制で県内での参加登録に従事した。

福島ユニットの調査地域 (リクルート時)

(平成24年10月以降)



福島県のエコチル調査への参加（登録）状況



リクルート
開始

平成23年3月11日
東日本大震災
東京電力第一原子力発電所事故

平成24年10月1日
調査対象地域を福島県全県下へ拡大

震災後の課題

- ✓ 震災の多面的な影響
- ✓ 放射線障害への不安
リスクコミュニケーション
支援体制の確立
- ✓ 単なる調査では受け入れられない
いかに参加者に寄り添うか
寄り添い子育てを支援する
心の安らぎを求めている
- ✓ 協力体制
参加者、県民への説明
関係機関との協力体制の整備



放射線に対する不安に対して（講演会開催）

◆平成23年7月

対象：協力医療機関スタッフ、エコチル関係者

講演「放射線の正しい知識」

福島県放射線健康リスクアドバイザー 山下俊一 先生

◆平成24年10月

対象：妊婦およびその家族、エコチル関係者

講演「胎児・子供の放射線影響を考える」

（独）放射線医学総合研究所

発達期被ばく影響研究プログラムリーダー

医療被ばく研究プロジェクトリーダー

島田義也 先生

職名：開催当時

広報（ポスター作製）

産婦人科医会からの要請で作成

福島でこれからママ・パパになるみなさま

Eco-Chil
Eco-Chil
Eco-Chil

エコチル調査
福島ユニットセンターが
応援します

産婦人科医・小児科医・助産師・看護師がそろっていますので
出産や育児についてお気軽にご相談ください

エコチル調査とは
子どもの健康や環境に、生活環境の中にある化学物質、生活習慣、遺伝的要因が
どのように影響を及ぼしているかを調べるものです。赤ちゃんが生まれる前から1歳未満
までの生活環境を振り返り、定期的に健康状態を調査していきます。

子どもの健康と環境に関する全国調査
エコチル調査 福島ユニットセンター
☎024-547-1449 ecochil@ecochil-fukushima.jp
http://www.ecochil-fukushima.jp/

0120-53-5252
9:00~21:00 (フリーダイヤル、年中無休) エコチルふくしま

福島全県化ポスター

これからママ・パパになるみなさま

Eco-Chil
Eco-Chil
Eco-Chil

エコチル★ふくしま
が応援します！

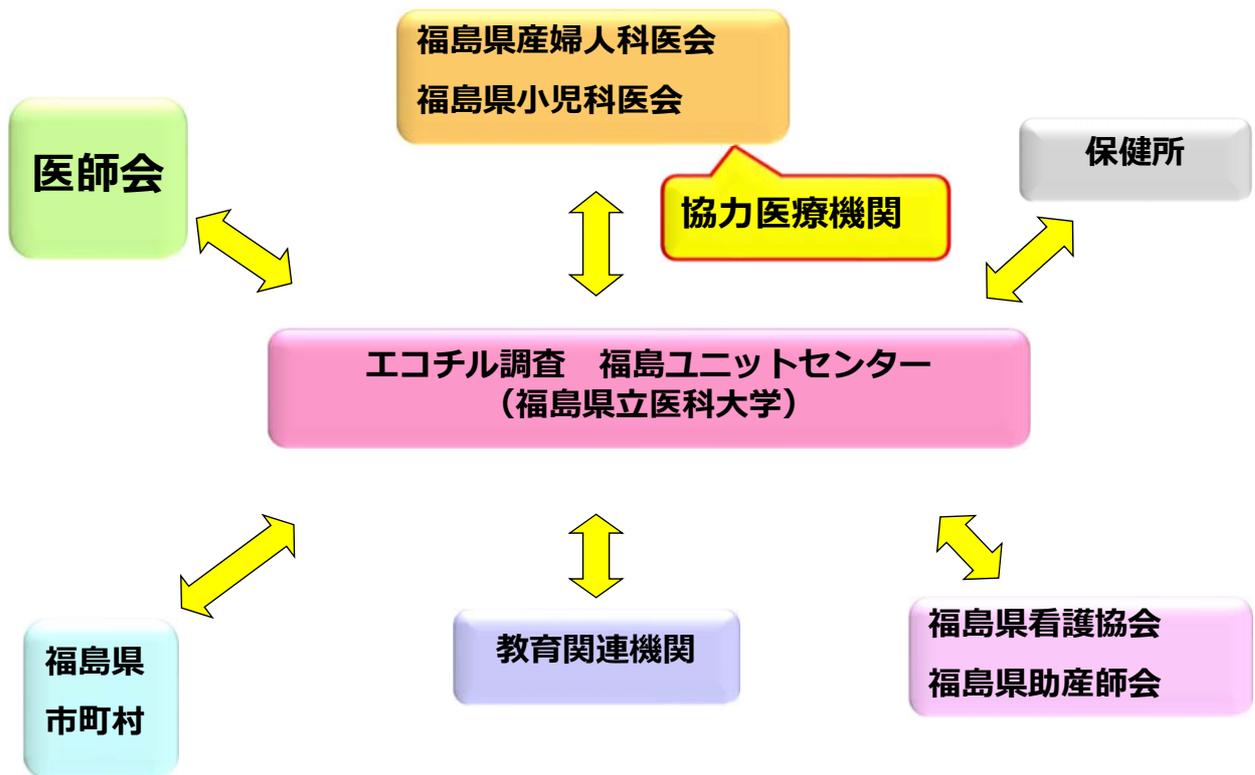
エコチル調査とは—
子どもたちの健康や環境に、生活環境の中にある化学物質、生活習慣、遺伝的要因が
どのように影響を及ぼしているかを調べるものです。赤ちゃんが生まれる前から1歳未満
までの生活環境を振り返り、定期的に健康状態を調査していきます。

産婦人科医・小児科医・助産師・看護師などがそろっていますので
出産や育児についてお気軽にご相談ください。

子どもの健康と環境に関する全国調査
エコチル調査 福島ユニットセンター
☎0120-53-5252
9:00~21:00 (フリーダイヤル、年中無休) エコチルふくしま

公共施設、ショッピングセンター、銀行などに掲示依頼

関係機関との協力体制



地域運営協議会の設置・開催

福島県地域運営協議会

7月開催

県北・相双地域運営協議会

県中・県南地域運営協議会

会津地域運営協議会

いわき地域運営協議会

10-11月開催

委員：約170名

福島県、県内市町村、教育関係機関、保健所、協力医療機関、医師会、産婦人科医会、小児科医会、助産師会、看護協会、臨床心理士会など

オール福島での取り組み

関係者への説明

1. 福島県下59全市町村を訪問
2. 協力医療機関での勉強会へ出席
3. エコチル調査に携わる関係者全員へ研修会実施・・・県内各地
 - ・病院スタッフ（医師、看護師、事務職員）
 - ・市町村担当者（保健師、事務職員）
 - ・エコチル調査ユニットセンタースタッフ

研修後「修了書」を授与

・・・現在まで約650人が終了



県内市町村との情報共有

最新のリクルート状況をお届けします
Vol.8
エコチル★ふくしま活動報告

平塚は、エコチル調査にご協力賜り、厚く御礼申し上げます。
平成26年1月、県内のお母さんの参加者数が「11,800人」、
お父さんの参加は「6,700人」、誕生したお子さんも「8,100人」と
なりました！

最新リクルート進捗状況
＜エコチルふくしま 参加者数(お母さん)の推移＞

＜居住地別参加状況＞ (Q26.1.31現在)

	お母さん	お父さん
福島県全体	11,797	6,750
東北保健所	5,275	3,881
関東保健所	1,076	442
関東保健所	746	440
関東保健所	1,142	325
南関東保健所	118	48
相模保健所	342	238
都山保健所	1,532	765
いわき市保健所	1,556	601

※平成23年1月末日より東北保健所管内の福島県、相模保健所管内の南相馬市、双葉郡で調査開始。平成23年6月1日より東北保健所管内の伊達市、伊達郡で開始。その後、平成24年10月より福島県内全59市町村で調査開始。但し、南相馬市、双葉郡は東日本大震災以後中断。
※東北保健所管内の参加者数が出ているのは、以上に示したように調査期間が長いため。
※「お父さん」の人数は、全県で9,165人です。(Q26.1.31現在)

全国では・・・

	お母さん	お父さん	お子さん
	95,076	44,825	70,257

最新 エコチル調査3周年シンポジウムが開催されました

エコチル調査は、全国で平成23年1月31日に始まりました。今年同日、環境省主催による「3周年記念式典」が東京都内で開催されました。シンポジウムでは、1歳6か月のお子様のお母さん福島市在住・石川優様が参加者を代表して、妊娠中の生活習慣と子どもの発育などについて話をされました。(写真中央)

最新 エコチル調査・その過程で「明らかになったこと」が公表されました

これまで3年間の参加者様からいただいた貴重なデータの集計結果が、環境省より公表されました。
妊婦さんの喫煙や飲酒など生活習慣、育児環境やパートナーの育児協力、授乳や離乳食など子どもの食事について、全国の約9万5千人の母親、約4万5千人の父親からのデータが報告されました。

【出産後1年】パートナーは育児負担を軽減したか
【出産後1年】1歳時点での離乳食の状況

これほど大規模な調査はこれまで例がありませんので、詳しい内容を、環境省のホームページで是非ご覧いただきたいと思っております。
【エコチル★ふくしまホームページ】
→【環境省】→【エコチル調査】→【最新情報 26.1.31 及び25.11.15】

福島の子どもの健やかな成長のため、
これからも、エコチル調査をよろしくお願ひ申し上げます。

【編集・発行】福島県立医科大学 エコチル調査福島ユニットセンター
(福島本部事務所) 〒960-1295 福島市北が丘1
TEL 024-547-1449 FAX 024-547-1448
(郡山事務所) 〒963-8024 郡山市朝日3丁目6番4号
レジデンス朝日第2ビル2階
TEL 024-983-4780 FAX 024-983-4751
(ホームページ) エコチル★ふくしま

協力医療機関との情報共有

エコチル★だより 第9号

クリニック 御中

トピック
福島県全体の母親同意数が9千人を超えました！

リクルート進捗状況

＜大川レディースクリニック様 リクルート進捗状況＞

	母親同意数(同意率%)	父親同意数(同意率%)	子ども登録数
9月			
拡大地域	369 (78.5)	190 (97.9)	
県北地域	143 (73.3)	116 (98.3)	
うら貴院			
貴院累計(リクルート開始より)	235 (99.2)	107 (100.0)	
福島県累計	9,463 (78.7)	5,320 (97.5)	5,293
全国15ユニット累計	82,759 (78.4)	39,090 (94.4)	57,982

※8月30日までの入力済みの母同意数を表示しています。

＜母親リクルート月別推移＞ (平成25年6月～平成25年9月)

	6月			7月			8月			9月		
	同意	不同意	同意率									
拡大地域	425	120	78.0%	497	120	80.8%	387	104	77.4%	389	101	78.8%
県北地域	157	39	80.1%	162	41	79.8%	123	24	78.3%	143	82	73.3%
計	582	159	78.5%	659	161	80.4%	490	128	77.2%	532	183	77.0%

県北地域+拡大地域

フォローアップ状況 (平成25年9月30日現在)

調査時期	発送数	回収数	回収率
6ヶ月質問票	3,197	2,848	89.1%
1歳児質問票	1,762	1,597	89.6%
1.5歳児質問票	1,021	894	86.6%

9月のインシデント報告事例 (4件・・福島地区 1件・拡大地域 3件)

- 生体材料関連 [2件]
 - ・チェックリストの記載漏れにより、中後期の採血を2回実施してしまった [1件]
 - ・チェックリストの記載漏れにより、初期の採血を2回実施してしまった [1件]
- IDラベル関連 [1件]
 - ・生体材料検査を作成する際に、確認不十分のため別人のラベルを貼付してしまった [1件]
- その他 [1件]
 - ・エコチル参加者の確認をしなかったため、Omの採体をすべて採取し忘れた [1件]

イベント

9月25日(水) 1歳6ヶ月児を対象とした『エコチルふれあい会』が福島地区で行われ、午前・午後あわせて約30組の親子が参加されました。絵本のふみきかせ・手遊び・小児科医による質疑コーナー・感染症による食育の話・参加者等向士の茶話会など、1時間半にわたりとても和やかなふれあい会を行いました。

9月29日(日) 福島市保健福祉センターで行われた『健康フェスタ』に参加し、エコチル講座の広報活動を行いました。

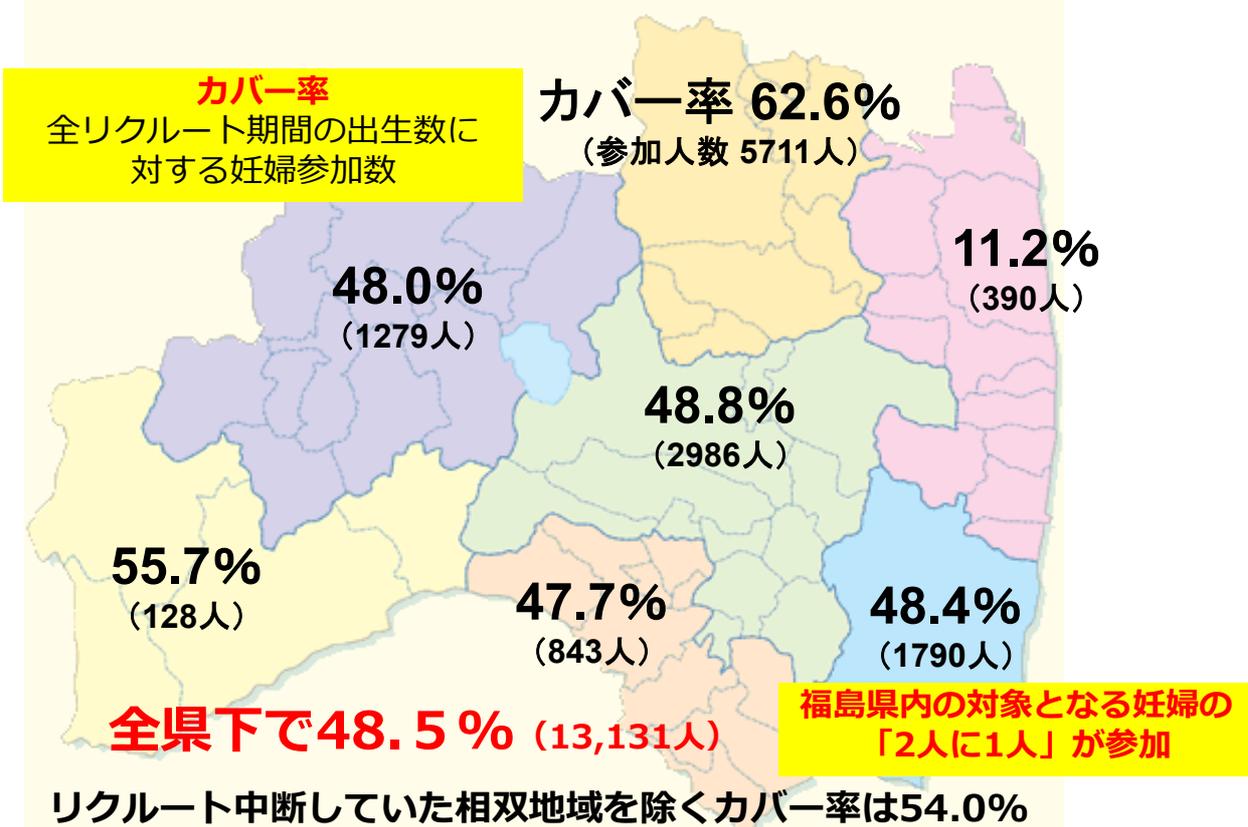
お知らせ

- 平成25年度各地域の運営協議会を下記の通り開催します。
 - 10/28(月) 県中・県南地区
 - 11/ 6(水) 会津地区
 - 11/27(水) 県北・相双地区
 - 11/29(金) いわき地区
- エコチルコンサート開催
 - 11/10(日) 郡山 郡山市民文化センター 申込締切 10/31(木)
 - 11/16(土) 福島 凡几セーブ 11/7(木)
 事前申し込みとなり、申込多数の場合は抽選となります。また、チャクターのネーミング発表を郡山会場で予定しています。
- ニュースレター
 - 2013年秋号が発行されました。拡大地域のユニットセンター員・母子健康手帳の活用・保育士さんからの子育ての話が掲載されています。どうぞご覧下さい。

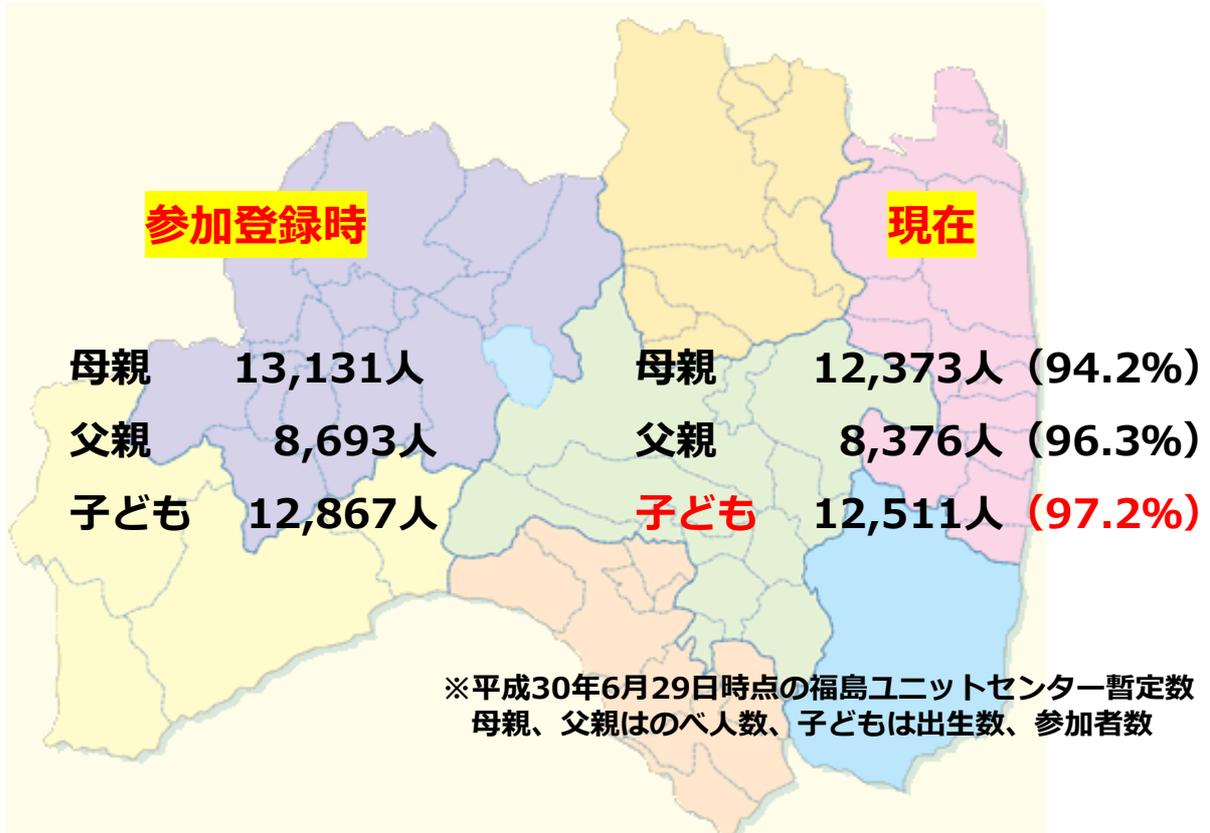
【編集・発行】 福島県立医科大学 エコチル調査福島ユニットセンター (大学本部事務局) 〒960-1295 福島市光が丘1
TEL 024-547-1449 FAX 024-547-1448
(郡山事務局) 〒963-8024 郡山市朝日3丁目5番4号
レジデンス朝日第2ビル2階
TEL 024-963-4780 FAX 024-963-4781
<http://www.ecochil-fukushima.jp/>

ご意見・ご要望などございましたら、巡回時等の際にお聞かせください

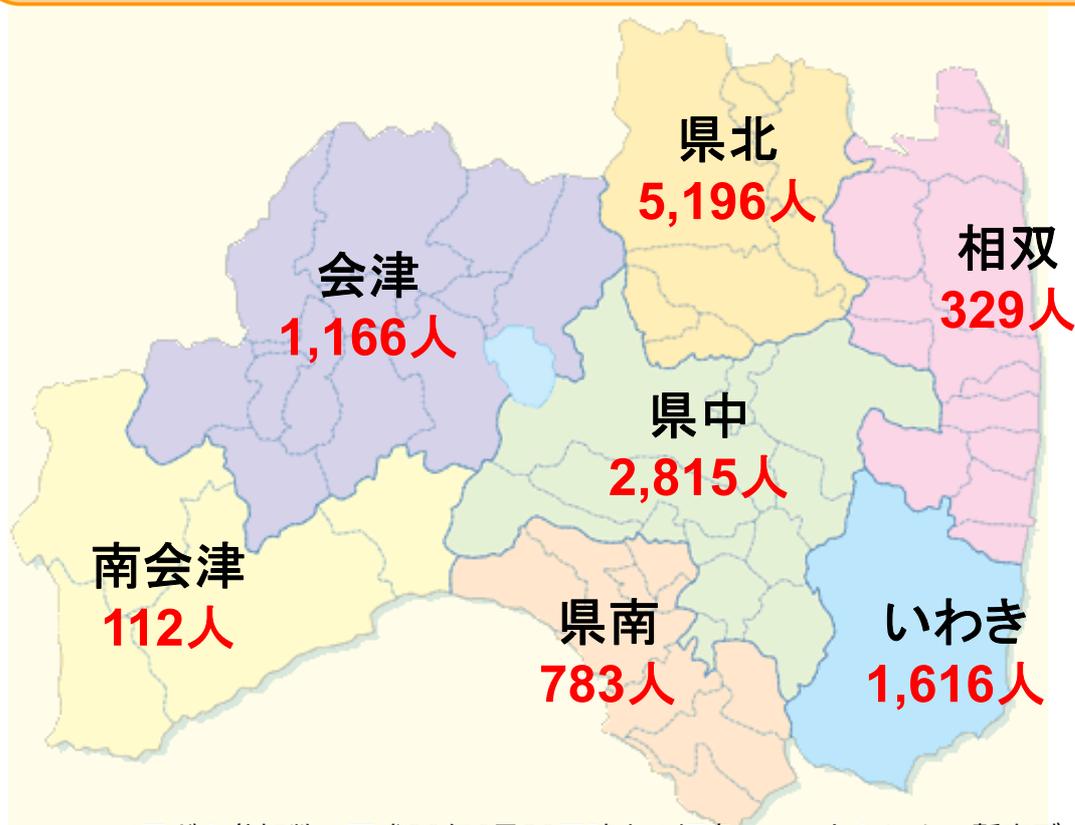
カバー率 (参加登録終了時)



参加者数

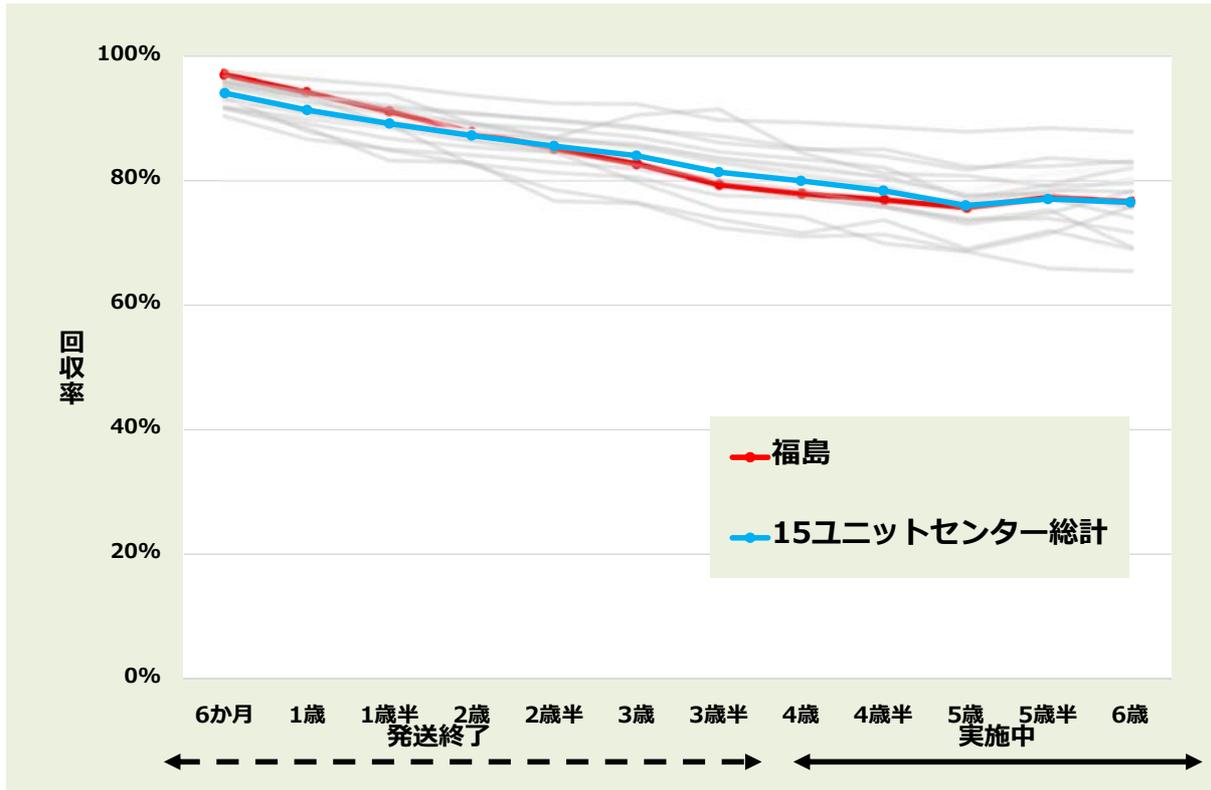


県内各地域の現参加者数 (子ども)



※子ども参加数：平成30年6月30日時点の福島ユニットセンター暫定データです。

質問票回収状況



(平成30年7月3日 実務担当者web会議資料 平成30年6月29日現在、発送後6か月以上)

現状と課題

現状	課題と目標
協力取りやめ件数 年間約 80-90 件	参加者減少率 を 年間 1% 以内にとどめる
年齢が上がるごとに 質問票回収率低下	質問票回収率 平均 80% を維持する



「顔の見える」参加者とのコミュニケーション

- ✓ リクルート開始時の参加者の思いを大切にする
- ✓ 参加者がエコチル調査の意義を再認識できる



「参加して良かった」、「13年間続けたい」というモチベーションを維持していただく

参加者コミュニケーションと広報活動

1. エコチル通信（ニュースレター）の発行
2. ホームページからの情報発信
3. オリジナルグッズの配布

- カレンダー
- 小学校入学祝の「名入れ鉛筆」

4.ふれあい会の開催

県内各地域の参加者対象でこどもの成長発達に応じた内容

5.広報

- エコチル講演会・コンサート（年1回）
- 市町村イベントへ参加（会津若松市、郡山市、福島市など）
- 保健医療機関掲示用ポスター（進捗の報告）
- イベント開催時のプレスリリース



→ 社会全体への周知が参加者の調査継続のあと押しになる
オール福島の醸成

エコチルふくしま通信（ニュースレター）の発行

- 年4回発行
- 配布対象 参加者および協力医療機関・市町村など関係諸機関
- 内容 質問票集計結果、ふれあい会報告、調査からのお知らせなど

2018年 夏号

いよいよ学期の新たなステージへ

nanacoポイントの失効前にお早めに電子マネーに交換を!!

エコチル調査 わかったこと

～最近1か月の食べ方をよりかえての傾向です～

おしえて先生! あんなこと、こんなこと

小児の食物アレルギー

ホームページからの情報発信

子どもの健康と環境に関する全国調査
エコチル★ふくしま エコチル調査 福島ユニットセンター

エコチル調査とは?
 Japan Eco & Child Study

妊娠初期から、お子様が生まれて13歳になるまで、環境中の化学物質などが、子どもの成長や発達にどのような影響を与えるのかを調べます。10万組のお母様と赤ちゃん、そしてお父様に協力していただく、大規模な環境省の全国調査です。詳しくは「[エコチル調査とは?](#)」をご覧ください。

エコチル★ふくしま主催イベントのご案内
 (ふれあい会、子育て講演会&コンサートなど)
 Guide of events

みんなの図書室

これまでに発行した資料を掲示。

- ・センター長挨拶
- ・エコチルふくしま通信
- ・調査でわかったこと
- ・活動報告書

えこちるふくしま

検索

URL <http://www.ecochil-fukushima.jp/>

平成29年度エコチルふれあい会実施状況

- 県内各地域で計**20**回開催
- 調査参加者との「顔が見える」コミュニケーションの貴重な機会
- 各回で、調査進捗状況の報告、お知らせ、小児科医のミニ講話、育児相談などを実施。



対象	内容	平成29年度		平成24~28年度計	
		実施回数	参加組数	実施回数	参加組数
6か月児	ベビーマッサージ		—	40	806
1歳半児	親子遊び		—	33	582
3歳児	親子ダンス	6	85	21	240
5歳児	クッキング	—	—	2	17
親子	音楽コンサート	—	—	5	81
4-6歳児	リトミック	5	93	—	—
保護者	・笑いヨガ ・子育てワークショップ ・子育て相談	9	70	—	—
合計		20	248	101	1,726

子どもの成長記録として



エコチルアルバム

- ◆ 出生から13歳までの成長の記録 (身長、体重、思い出の写真)
- ◆ インフォームドアセントの入り口

エコチル調査ってなに？

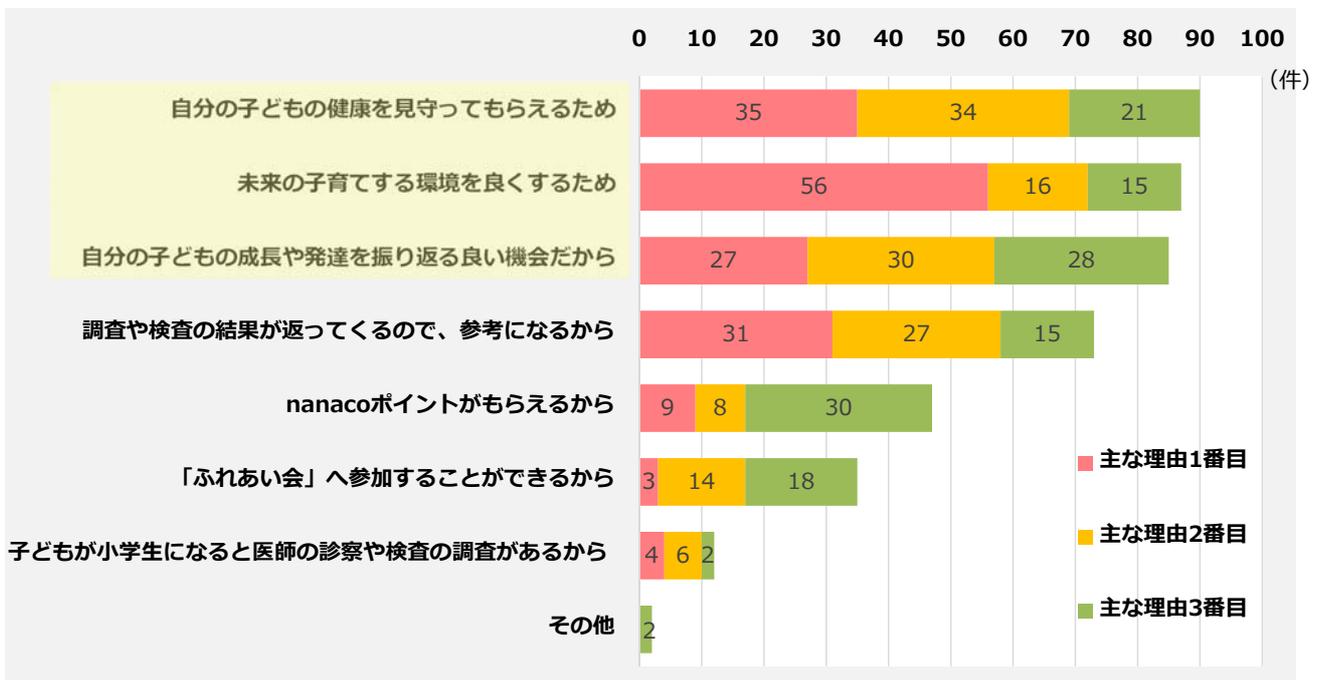
「子どもの健康と環境に関する全国調査」
日本全国で10万人の妊婦さんと生まれてくる赤ちゃんに協力してもらい、みんなで13年間、子どもたちを見守り、子どもの健康や生活について調べるんだよ。空気・水・食べもの・おうちのハウスダストなど身の回りのもの（化学物質）が子どもたちの成長や病気にどんな影響があるかを調べる国のプロジェクトなんだって。

環境省の国家プロジェクト
子どもの健康と環境に関する全国調査
福島県立医科大学
エコチル調査 福島ユニットセンター



参加者がエコチル調査に参加する理由

質問 あなたがエコチル調査に参加している主な理由について順位をつけて3つ選んでください



(平成29年度エコチル調査事業評価アンケートより)
回答者 ふれあい会親子対象参加者 174名 無回答27件

ユニットセンター集計データリーフレット

- 参加者および関係者の皆様と、エコチル調査に寄せられたデータを共有する。
- 2011年から2018年までにユニットセンターへ提出いただいた**妊娠中から4歳6か月までの子育てに関する質問項目約30項目**を取り上げて集計。

妊娠中の状況

- 妊婦、母親、パートナーの喫煙状況
- 妊婦の飲酒



幼児の生活状況など

- 登園・通所開始時期
- 睡眠状況
- 排泄の自立
- メディアとのかかわり
- 食事、栄養状況について など



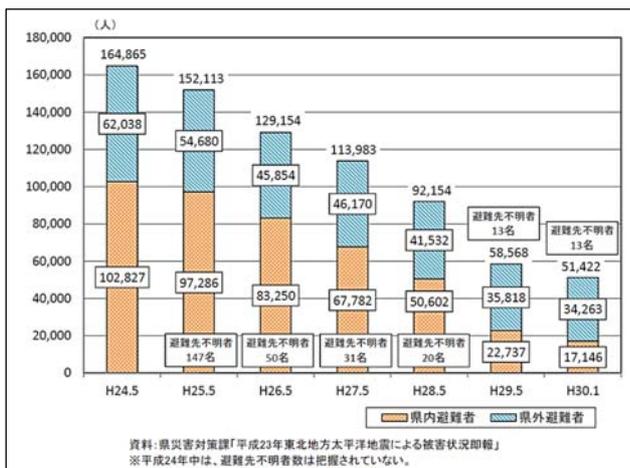
乳幼児期の育児状況

- 授乳状況、卒乳の時期
- 母親の就労状況
- パートナーの育児への協力
- パートナーの育児や家事への満足度
- パートナーの育児分担
- お子さんの面倒を見てくれる人
- 子どもについて相談できる人

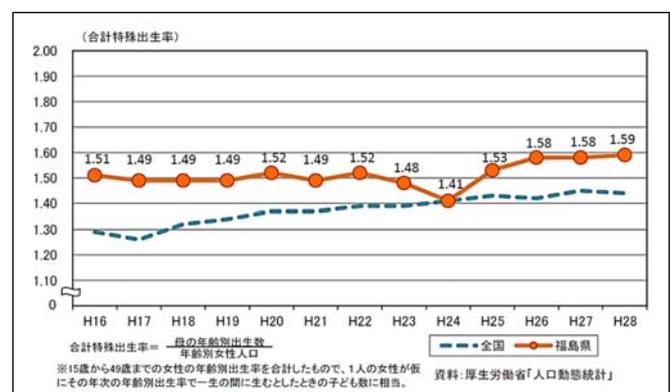


復興・創生へのあゆみ

避難者数の推移



合計特殊出生率



福島県企画調整部統計課編：一目でわかる福島県の指標から抜粋

東日本大震災、原発事故から7年経過、8年目へ。

震災、原発事故による多面的な様々な問題の解決には更なる時間が必要。

同時に新たな発展へ。

福島県でのエコチル調査に求められていること

◆しっかり、福島県の復興・創生によりそう

- ➡ やむなく、中断した、当初の調査対象地域の南相馬市、双葉郡の町村を訪問。報告、情報共有。

◆絶えず進化（成長）する調査をやり遂げる

- ➡ 参加者の生活環境の変化に沿った実施体制
 - ◆ 参加者の声を聴く
 - ◆ オール福島のさらなる発展
 - ✓ 教育関連機関とのさらなる情報共有の強化
(小学校校長会、教育事務所、教育委員会)
 - ✓ 基幹病院のみではなく個人医院にも協力要請

福島の子どもたちを見守る（全県調査）

必ず、震災後10年、20年と経過してゆく中で、
「福島あの頃の子育てはどうだったのだろうか？」
「環境の影響はどうだったのだろうか？」と、

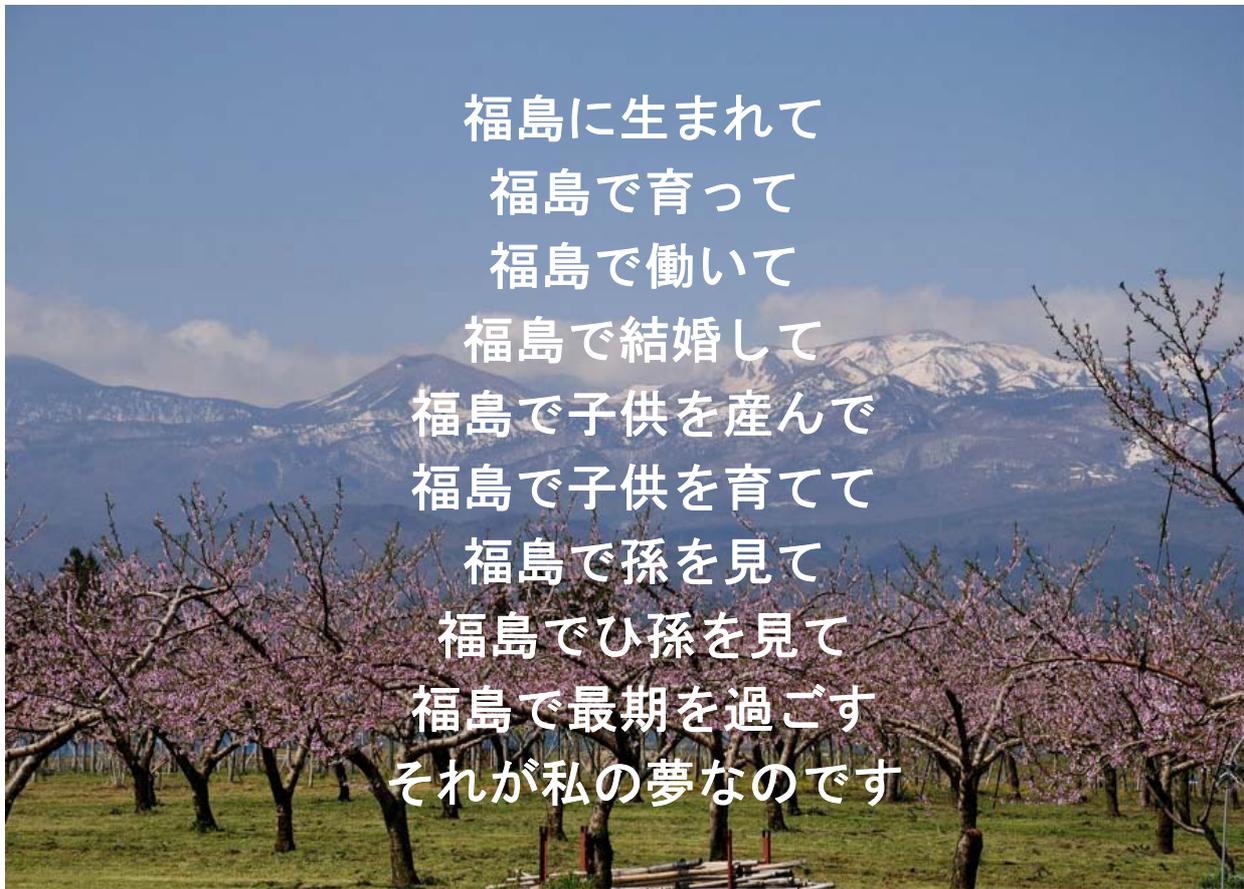
振り返り、問うときが来る。



その問いへの準備という社会的責任。
そして、現在の家族の子育てを支える。

エビデンスの発信

→リスクコミュニケーション、メディアリテラシー



福島に生まれて
福島で育って
福島で働いて
福島で結婚して
福島で子供を産んで
福島で子供を育てて
福島で孫を見て
福島でひ孫を見て
福島で最期を過ごす
それが私の夢なのです

第35回全国高等学校総文化祭：開会式創作劇「ふくしまからのメッセージ」主人公桃子の台詞より（平成23年8月）

謝辞

- ◆ エコチル調査参加者のご家族の皆さま
- ◆ 産科婦人科医療機関（52医療機関）

【県北】いちかわクリニック、ささや産婦人科、新妻産婦人科、大川レディースクリニック、渡辺医院、セイントクリニック、菅野産婦人科医院、本田クリニック産科婦人科、福島赤十字病院、明治病院、大原総合病院、済生会福島総合病院、福島県立医科大学附属病院、二本松病院、谷病院

【県中】たなかレディースクリニック、岡崎産婦人科、塚原産婦人科内科外科医院、古川産婦人科、小森山産婦人科、トータルヘルスクリニック、太田西ノ内病院、総合南東北病院、国立福島病院、寿泉堂総合病院、星総合病院

【県南】片倉医院産科・婦人科、白河厚生病院、塙厚生病院、岩佐医院（茨城県大子町）

【会津】舟田クリニック、竹田総合病院、会津中央病院、坂下厚生総合病院

【相双】あらかき産婦人科クリニック、西潤マタニティークリニック、レディースクリニックはらまち、大町病院、原町中央産婦人科医院（現：南相馬中央医院）、双葉厚生病院、南相馬市立総合病院

【いわき】村岡産婦人科医院、渡辺産科婦人科、かたよせクリニック産科・婦人科、つくだ町産婦人科医院、森田泌尿器産婦人科医院、月川レディースクリニック、佐藤マタニティー・クリニック、いわき市立総合警城共立病院

- ◆ 詳細調査等実施機関（11施設）

福島県立医科大学附属病院、公立藤田総合病院、大原総合病院、太田西ノ内病院、星総合病院、白河厚生病院、竹田総合病院、いわき市立総合警城共立病院、県立南会津病院、公立相馬総合病院
NPO法人子どもの家（第二子どもの家 M・A・Y / いわき）

- ◆ 福島県、県内59全市町村の関係者
- ◆ 教育関係機関、保健所、医師会、産婦人科医会、小児科医会、看護協会、助産師会、臨床心理士会など
- ◆ 環境省、国立環境研究所、国立成育医療研究センター、全国のUC
- ◆ 福島県立医科大学、福島UCのスタッフ

ご清聴ありがとうございました。

これからもエコチル調査を
よろしくお願いします。

